

【分野名：社会科学】

大 学 名	政策研究大学院大学
拠点のプログラム名称	アジアの開発経験とその適用可能性
中核となる専攻等名	政策研究科、国際開発戦略研究センター
拠点リーダー氏名	大野健一
<p>《拠点形成の概要》</p> <p>途上国における貧困撲滅は、国際社会が取り組むべき最重要課題の1つである。特に、南アジアとサハラ砂漠以南のアフリカでは貧困問題が深刻なままだが、日本を始めとする東アジア諸国は貧困削減と経済成長に成功を収めてきた。東アジアの開発経験の他途上国・地域への適用可能性にかかる実証研究、及び政策研究を通じた成果の発信は、日本の研究機関がリーダーシップを発揮して取り組むべき重要な研究課題である。</p> <p>本研究は、東アジアとアフリカの相互比較を主軸として、東アジアの開発経験を国際的に共有・議論できる形にまとめることを目的としている。具体的には、複数国の農業・工業等を実証研究し、それらの成果を学術論文として国際的ジャーナルに発表るとともに、開発戦略や援助アプローチに関し当該国・日本を含むドナー・国際機関に対して具体的な政策議論を行い、国際開発戦略をめぐる動きにインプットすることをめざす。</p> <p>また本研究は、国内の枠にとどまることなく、組織をこえたネットワーキングを重視する。実証研究では、アフリカ及びアジアにおいて国際研究機関や現地大学との共同で大規模な農村家計データや工業部門データの収集と分析を行う。政策研究においては、海外の研究者、とりわけ日本留学を終えて帰国した優秀な若手研究者を積極的に発掘・動員して、彼らに研究・政策提言の一翼を担ってもらおう予定である。この目的のためにベトナムをパイロット国として選び、本研究の分室オフィスをハノイに開設する。</p>	